



岐阜セラック製造所

献血の取り組み



「献血にご協力をお願いします」

大きなショッピングモールや駅前でそんな声が響く。そんなシーンに出会ったことはある、という方は多いのではないのでしょうか。

しかし、実際に献血をしたことがある、という方はそう多くないかもしれません。かくいう私も、以前は全く興味がありませんでした。注射が怖い、貧血気味だ、というわけではありません。ただ、興味がなかったのです。献血カーもただの景色の一部でした。そんな私も GSM に入社して初めて献血しました。

工場に「献血バス」

当社では、長年にわたり、年に 2 回の献血を実施しています。春と秋、献血バスを工場内に呼ぶことで、就業中の社員も受けに来られるようにするためです。興味がなかった私も、工場にバスが来るのなら、と初めての献血にチャレンジ。そこで初めて献血の意義について考えることになりました。

献血は「見知らぬだれか」を救うボランティア。本当にだれかの役に立ったのかは、実感しづらい、わかりづらい部分がありますね。でもその親切が、突然自分に返ってくることがあります。

命をつなぐ



献血

見知らぬだれかを救う
見知らぬだれかが救われる

当社で献血を続けるある社員がいます。人生初めての献血は学生時代。通っていた大学の事務員の方が手術することに。輸血用の献血を、大学内で募集していました。20 名程の仲間が集まり、病院へ。細いチューブを伝って、血液と共に伝っていく若者たちの感謝と応援の想い。献血を必要としているひとが確かにいる、それを実感しました。

大切なのは「献血をしよう」という想いを絶やさないことです。この社員が今も十数年献血を続け、そのあとに続く若者がいるように、小さく芽吹いた社会貢献の芽を増やしていく努力が必要なのです。そうした努力が見知らぬだれかを救い、そこに新たな想いが芽吹く。その連鎖の先に、家族が救われる未来もあるのかもしれない。救える可能性を持ち続けるために、より多くのひとの献血が常に求められています。

知ってほしい、岐阜県の献血の今を。



岐阜県内で輸血によって救われる命は1日あたり約60人、1年間で約2万人。この患者さんたちを支えるために岐阜県内で必要な献血者数は、1日約150人~200人です。献血バスは1台あたり約50人の方に献血にご協力いただくことを目標に岐阜県内を巡回しています。

献血紹介動画

“What’s KENKETSU?”
ぜひ一度観てください!



What's KENKETSU? ~3分間でわかる献血のはなし~



みんなの
献血
体験談



正直、注射はあまり得意ではありません。今でも苦手です。でも会社のひとに誘われ、恐る恐る挑戦しました。針を刺す瞬間はやっぱり痛みます。それでもいつも参加している先輩を見ると、また行こうかな、という思いになり、自然と続けられています。このまま注射嫌いを克服したい。



なぜか献血の日に微熱が出ます。挑戦しようとする、献血前の検査のときに微熱の診断が出てしまい、実施できないことが 2 回続きました。至って元気で風邪もひいていないのに・・・諦めず通い、三度目の正直でやっと検査が通り献血できたころには、「微熱の子」と看護師さんに顔を覚えられていました。